

第4回米の将来価格に関する実務者勉強会の概要

日時：令和6年1月30日（火）14:00～14:45

場所：農林水産省本館4階 特別第2会議室

○ 米の将来価格に関する実務者勉強会のとりまとめ案について

資料に沿って、米の将来価格に関する実務者勉強会のとりまとめ案を事務局から説明し、委員から発言を求めた。

【生産者委員】

- 取引形態の選択肢が増え、自分たちが選べるようになることは良い。今後、国内の需要が減っていく中で、消費者の取り合いになるのが目に見えるため、海外を見据える必要がある。
- 示された仕組みが機能すれば販売先が増えるため良い。しかし、国内需要が減る中で、農地を維持するためには、海外も見据えた市場設計をすべき。
- 取引形態の選択肢が増えることは良い。生産者と実需者がフラットな関係で、適切な相場感を共有できるようになる。将来価格が形成される新しい経済インフラとして、透明度の高い取引ができるようになって感じた。
- 取引の形態が増えることは良い。ただ、生産者側が新しい取引形態に直ぐに順応できるか不安。現物市場もそうだが、今後先物市場が始まった場合でも、長いスパンで運用することが重要であり、また、海外市場の獲得の件も含め、長いスパンで良い形に変えていくことが重要。

【集荷業者委員】

- 需要に応じた生産、事前契約の推進、再生産可能な価格水準の確保が重要であり、持続可能な生産が行えることが一番大事。
- 米の生産を維持していくためには、再生産可能な価格は重要。再生産価格から始まり、実需者の希望価格とどこで折り合いがつくかということだと思う。取引形態の選択肢が広がることは良い。

【卸売業者委員】

- ある程度の指標があれば、安定した取引を行う一助となり、長期・中期の契約が結びやすくなる。取引の組み合わせによるリスクヘッジは、経営の安定化に重要な役割を果たし、リスクヘッジの機能を強化することは、様々な課題を解決する鍵になる。
- 現物相対取引を中心に行っているが、開設された現物市場に期待を寄せている。また、取引形態の選択肢を増やすということで、今後、先物市場が開設されることにも期待。商売方法は多岐にわたるので、それぞれの立場で努力し、自分の米の価格を高めようとするのが大事。

○先物市場は、生産費の算出の参考となるなどから、生産者にとって使い勝手のよいものと考えている。とりまとめは、取引の使い方の例示によって参考となり、使いたいと思う人も出てくると思う。安定的な原料の確保といった点でも取引形態が様々あると良い。また、国外に目を向けた場合、指標があると海外バイヤーも参考にして、取引の検討ができると思う。国内の需要が減少する中で、そのような動きになればビジネスチャンスも増えると思う。

【実需者委員】

○売り手・買い手の双方が販売、調達において役立つ指標、あるいは、取引リスクを抑制する手法が取れることは良いこと。いつか先物市場が開設されたら、当社もリスク抑制策として上手く取り入れたい。

○取引形態の選択肢の利用方法は今後深掘りする必要があるが、参考になった。持続可能な農業には、安定した収入が得られ、生産計画が立てられる事前契約が重要。実需者も、安定した量を確保するために複数年契約を含めた事前契約を進めることが重要。また、とりまとめにある「勝ち」「負け」については、無くす方法が多くあるのではないか。お互いに話し合いを行って、妥協点を見つけられると良い。

委員発言後、案の語句を一部改める技術的修正を行った上で、とりまとめとすることについて、了承された。

(以上)